



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第40号

2021年12月24日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

「2021 冬休みわくわく算数・数学教室」スタート！！

12月24日、今年も「冬休みわくわく算数・数学教室」が始まりました。ピンと張りつめた朝の空気の中、SPさんたちが元気に控え室である図書室へ入ってきてくれました。「いよいよ今年の冬も始まるな」と身を引き締めながら、でも、SPさんに会えるワクワク感でいっぱい朝の時間でした。

今年の「冬休みわくわく算数教室」は、学生実行委員会（＝スピリット）が中心になって運営をしてくれています。スピリットのメンバーは有志で構成されています。メンバーである茂木SPは、この日朝一番に来てくれました。スピリットは今日を迎えるまでに、何度もリモートで打ち合わせをしてくれています。「誰がどんな仕事をするか」「こんなことも自分たちでできるのではないか」「この資料はどうやって作るのか」「こんなことにチャレンジしてみようか」SPさんたちで考え、相談し、運営をしてくれています。（また後日、スピリットメンバーの活躍の様子を通信にまとめます。）10人に満たない少数精鋭のメンバーが、ものすごい熱量で、子どもたちのこと、仲間のこと、「わくわく算数教室」のことを考えてくれています。すばらしい文化がまたスタートしました。

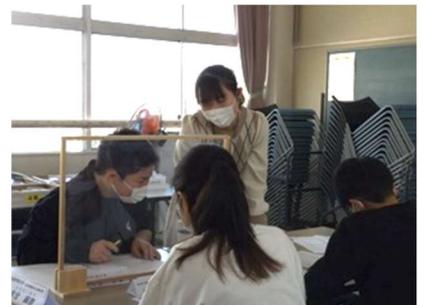


今朝のSPの打ち合わせ会は、片葩小のSPコーディネーターである中村先生が行っていただきました。事前に「SP活動の手引き」や指導する担当学年の教科書もSPさんに郵送をしてくださっています。初めてのSPさんでも、十分初日から活動していただける理由がここにあります。そして不思議なことに、こうした「手厚い準備」を体感しているSPさんたちは「手厚い準備」が出来るような先生になっていきます。準備が万全だから、安心感がある。安心感があるから、活動に集中して取り組める。それを実感したから、準備の大切さが分かる。みなさんが何気にも感じたその安心感が、実は将来に繋がってきます。これだけでも大きな学びの一つになっていると思います。

そして、いよいよ「わくわく算数教室」がスタートしました。コロナ禍にも関わらず、多くの子どもたちが参加しています。今までのSPさんが繋いでくれた「信頼」が、こうしたイレギュラーな事態のときに光ってきます。これだけの子どもたちが集まってくるのですから……。 「算数教室が楽しみで、早く来ちゃった」、そんなことを言っている児童もいました。「わくわく算数教室」を子どもたちはこんなに楽しみにしています。“学習する時間”を子どもたちが楽しみにしているのです。しかも、その学習時間は90分と、普段の授業の2倍の長さです。これはすごい事実です。子どもたちにとって、何にも代えがたい貴重な時間になっています。



年末にも関わらず、今日は各大学で講義がある日だったそうです。通常は1対1か1対2で指導をすることが多い「わくわく算数教室」ですが、今日は、SPさんの人数が少なめで、1対3か1対4の指導になりました。始まる前は、「SPさんたち、大丈夫かな」と少し心配していましたが、何のその。どのSPさんも、余裕をもって、効率よく、丁寧に指導してくれました。「すごいね。」「できたね。」「そうそう!」「できるよ。」「さすがだね!」「これ、チャレンジしてみよう!」、あちらこちらでSPさんたちの温かい声が聞こえます。今日、初めて「わくわく算数教室」に参加するSPさんも、最初は緊張した面持ちでしたが、30分も経たないうちに子どもたちと打ち解けて、こんな温かい声かけをシャワーのように子どもたちに浴びさせてくれていました。当然、子どもたちはどんどんノリノリになってきます。担任の先生が途中で見に来てくださっていましたが、「すごい。めちゃくちゃ集中して勉強してる。」と驚かれていました。SPさんたちのこうした声かけは、子どもたちにとって大きな大きな励みになっています。子どもたちの目がどんどん輝いていくのがあちらこちらで見られます。「自分だけを見てくれる」から、「優しくってポジティブな声かけがある」から、子どもたちは頑張れます。どんどん進められます。そして、「できた」という実感が、次の学習へと繋がっていきます。すばらしいループです。これぞ「わくわく算数教室」。「え、もう終わっちゃったの?」「早く次回にならないかなあ。」「次はこれをやりたい!」終わるころには子どもたちが口々にそう話していました。さようならの挨拶をした後の子どもたちの表情はとても満足気で、どれだけ充実した時間を過ごすことができたのかが一目瞭然です。これはすべてSPさんたちの力です。SPさんたちがいてくれるから、これだけ質の高い、充実した学習の時間を子どもたちが過ごすことができたのです。始まったばかりの「2021冬休みわくわく算数教室」、残りの4日間も皆さんの温かい支援・指導で子どもたちに学習の楽しさを伝えてあげてください。よろしくをお願いします。



今日は、3人のシニアSP(=SPの卒業生)も応援に駆けつけてくれました。すでに現場で活躍している先生たちの子どもたちとのやり取りは格別です。まとっている雰囲気が違います。子どもたちからもすんなりと「先生!」と呼ばれていました。シニアSPの雰囲気、最高でした。忙しい中、駆けつけてくれてありがとうございました。こうしたシニアが駆けつけてくれる温かい雰囲気の「わくわく算数教室」が大好きです。森田シニアSPは、「とても刺激になりました!後輩SPの活躍がとても嬉しく、頼もしく思いました。」と話してくれました。後輩SPにとっても、シニアSPの存在が励みになったことでしょう。まさにWIN-WINの関係ですね。



午後は、東浦中学校で「わくわく数学教室」が開催されました。「小学生とはまた雰囲気が違うけれども、SPさんからどんどん声をかけてあげてくださいね。」という話を打ち合わせ会でもしました。すると、どのSPさんも数学教室が始まるとすぐに、生徒に積極的に声をかけてくれていました。そのお陰で、教室全体を通してとてもよい雰囲気になっていました。「よくわかった!」「なるほど!」「これ、すっごく使える!」「感動した!」生徒たちからこんな声がたくさん聞こえてきました。SPさんは、生徒になんとか分かってもらおうと、表情をよく見ながら根気よく向き合ってくれていました。紙に図を描いたり、言葉を変えてみたり、違う例えを出してみたり、あの手この手を使ってなんとか一つでも理解できるよう工夫してくれました。生徒の生の反応が、SPさんの一番の学びになります。こうした経験を積んでいくことが、必ず将来に繋がってきます。毎年「わくわく算数・数学教室」開催中に、伝え方(指導の仕方)がぐんぐん上手くなっていくSPさんがたくさんいます。

教室開催後、昇降口で「今日は来てよかったです。」「ここに来たお陰で、今日でたくさん進めることができました。」「最高のクリスマスプレゼントになりました!」と言って、最高の笑顔浮かべながら帰る生徒たちの後ろ姿がとても素敵でした。その姿はSPさんにとっても最高のクリスマスプレゼントになったことでしょう。この生徒とSPさんの関係もまた、WIN-WINの関係です。どちらにとっても貴重な体験の場になっています。今年の冬休みは1日だけの日程でしたが、ギュッと中身の詰まったとても濃い「わくわく数学教室」になったと思います。数学の勉強をしているのに、とても楽しそうな生徒たちの姿が印象的でした。「SPさんの力って、本当にすごいなあ……」と毎度感心してしまいます。SPさんも、「中学生への指導、楽しかったです。勉強になりました。」「またこうした機会があれば、ぜひ参加したいです。」と話してくれました。2月中旬には、テスト前の自主勉強会が東浦中で開催されます。そこで、SPさんの力をまた借りたいと思っています。大学の春休み期間中、SPさんたちの温かいパワーをまたぜひ貸してください。

